

あうどん物語

そろく 夏の送り物として

又秉よか亭 と期待していのりか 半平子

めんるり

はじりて 冬甲のうとん 大来石時 八丁お

ボフケフアア

4のころの量 どうしふう と思つた

おせよと左う尻へ 今 くら 送りもの

をしているお したしいおでもあ

半平子めんるり を送つてくれよ人は

土車Eしていいところの 営業マンの一人

それほど したしい人でない

必ず冬休うとん 夏はそんなめんが

おれのチレウとする本

ある時 送り主かすすて 臭さすお

はまな いつもありおとくじ さい

何ですか わかりませぬ どおに

たつた

これはすずい と思ひ かわえしは

と思つたていた

